
第3回 東京湾流域別下水道整備総合計画策定懇談会 議事録

日時：令和4年3月17日(木) 14:00～15:50

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館18階DXルーム（WEB併用）

出席者：別紙参照

議事：

1. 第2回懇談会の指摘事項と対応について
2. 汚濁解析モデルの精度向上及び現況再現計算の検証について
3. 将来排出負荷量の定量化と将来予測計算及び結果について
4. 今後の整理に向けた対応について

I 議事要旨

- ・ 将来水質予測に関する基本的な方針について了承された。また、モデルの再現性の確認、及び今後の整理に向けた方向性などについて助言を得た。

II 議事録（概要）

(1) 第2回懇談会の指摘事項と対応について（資料-1）

- ・ 各種の影響については長期にわたるデータのもとで言えることであり、今すぐモデルに活用できるものではないため、影響の有無について若干の考察を加えていただければよい。（近藤委員）
- ・ 現段階では、どの程度の影響がありそうだとということが明確になっていけばよい。（浅枝委員）
- ・ 今回これらの影響が結果を大きく変えるものではないことが分かったため、どの程度の影響があるか記録にとどめておけばよいと考える。（花木座長）

(2) 汚濁解析モデルの精度向上及び現況再現計算の検証について（資料-2）

- ・ ある程度再現性がずれるのはしかたがなく、モデルでは非常に悪い状況と良い状況が概ね再現できていけばよい。例えば昭和40年代の悪い状態や江戸時代など流域負荷が非常に少ない状態などが考えられる。（浅枝委員）
 - ⇒ 負荷量など、どういうデータが存在しているかが問題である。（花木座長）
 - ⇒ 現在計算に使用しているような条件を与えるのは難しく、仮定条件が多くなってくる。（事務局）
 - ⇒ それほど定量的でなくてもよく、定性的でラフなものでよい。（浅枝委員）
 - ⇒ 水質については1950年くらいのもものはあるかもしれない。まずデータの存在状況について確認し、シミュレーションが可能ならやってみるといったことか。（花木座長）
 - ⇒ それで結構である。（浅枝委員）
 - ⇒ データの確認も必要なので、引き続き相談しながら進めていきたい。（事務局）
 - ⇒ もっともな指摘であるが、実際に昔のデータを集めて計算するのは非常に大変だと思われる。乖離原因について知見を整理し、今後どうすれば精度があがるかという立場でまとめるとよい。（近藤委員）
 - ⇒ 観測値と計算値が合わない場所が残るものの、そこを無理に合わせようとする全体が合わなくなるため、乖離原因をまとめて考察しておくのが可能な範囲かもしれない。（花木座長）
-

-
- ・ 大まかでよいので船から出る負荷量を見積もれないか。それが分かれば航行している船に対して忠告するなどの利用も考えられる。(浅枝委員)
 - ⇒ 船がどのような形で排出しているか現時点で把握できていない。シミュレーションへの反映とは別と考えるが、どういう傾向にあるものかまず確認してみる。(事務局)
 - ⇒ 国際条約による排出の基準は既に整っているが、プレジャーボートなどの小型船舶についてはまだ問題があると考えられる。関連データについては海事局と日本マリン事業協会に問い合わせるとよいが、誰がどこでどういうものを排出しているかは分からないと思われる。(近藤委員)

(3) 将来排出負荷量の定量化と将来予測計算及び結果について (資料-3,4)

- ・ 単純将来 COD 負荷量が現況より減少している理由はなにか。(浅枝委員)
- ⇒ 人口減少と下水道区域の整備拡大によるものである。(事務局)
- ・ 前回基本方針検討の際に底層 DO に関する議論があったが、今回は計算しているのか。(浅枝委員)
- ⇒ 今回の資料には示していないが、底層 DO については計算を行っている。(事務局)
- ⇒ 一般の方には、COD よりも酸素がなくなることのほうが分かりやすくインパクトがある。(浅枝委員)
- ・ 計算誤差の最小化の方法については妥当と考えてよいか。(花木座長)
- ⇒ 問題ない。(浅枝委員、近藤委員)

(4) 今後の整理に向けた対応について (資料-5,6)

- ・ 最近はブルーカーボンへの取り組みや、干潟の再生も提案されている。干潟や藻場が造成されると炭酸ガスだけでなく窒素とリンも固定化される。東京湾としてもこれらをどのように受け止めて環境を制御していくか、何らかの形でコメントが必要と考える。(近藤委員)
- ・ 自然系負荷の割合が多いため、下水道での対応には限界がある。治水だと流域治水という考え方があがるが、例えば畑の肥料などの面源負荷について、流域治水のように湿地などで流域削減を行う考え方も今後は必要になってくると思われる。(浅枝委員)
- ⇒ 将来において下水道では負荷量が減りきらない、外海水質の低下も期待できない場合において、面源負荷削減の課題が大きいということをメッセージとして伝えるということか。(花木座長)
- ・ 下水処理水質を一律で設定すると、小規模な処理場においてはエネルギー効率が悪く、トータルで環境を考えると脱炭素の面から問題がある。このような下水道事業による CO₂ の排出、先ほどの干潟などの生態系の役割なども含めて、他の環境の側面が今後の考察に加えられると、より前に進むと思われる。(花木座長)

(5) その他

- ・ 次回の懇談会は、令和 4 年 9 月～10 月頃に予定している。(事務局)

以 上
